

森のひろば

フォレスト・ニュース

NO.1205

令和8年8月号

林野庁 近畿中国森林管理局



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



ヒマワリ（万博公園・吹田市）

トピックス：野生鳥獣害対策の取組の紹介（保全課）

ニュース：、岡山森林管理署、福井森林管理署、企画調整課

花草木：ペンタス

我が署のスタッフ：岡山森林管理署

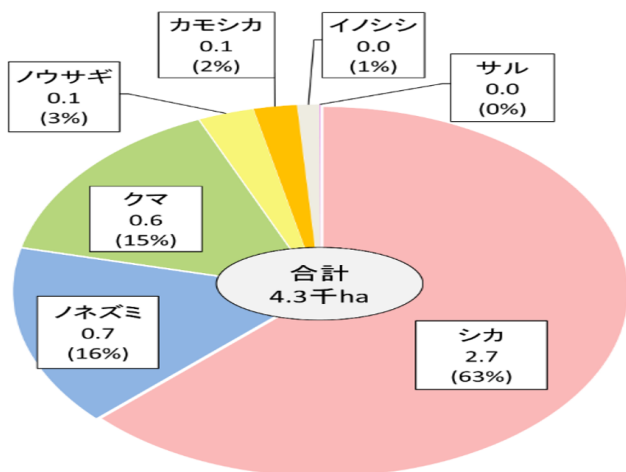
森林事務所等紹介：松阪森林事務所（三重森林管理署）

国有林最前線：鳥取森林管理署

野生鳥獣害対策の取組の紹介

【保全課】

○シカによる森林被害の現状と取組



主要な野生鳥獣による森林被害面積（令和6年度）



下層植生の食害（滋賀森林管理署管内）

●現状

近年、野生鳥獣による森林被害発生面積は減少傾向にありますが、長期にわたるシカ生息数の増加および生息域の拡大により、森林の被害は深刻な状況となっています。

令和6年度のシカ被害発生面積は全国で約2.7千ヘクタールで、野生鳥獣による森林被害面積の約6割を占めています。そのほか、ノネズミ、クマ、ノウサギ、カモシカによる森林被害が発生しています。

シカは繁殖力が高く年率約20%で増加し、4～5年で個体数が倍増するとされています。

近畿中国森林管理局管内の国有林においても、苗木の食害や下層植生の衰退等が生じており、一部では被害が深刻化しています。このまま下層植生がなくなると、土壌流出のほか土砂災害等のリスクも高まることが危惧されています。このような災害を防止するため、地域と一体となったシカ被害対策の推進が重要であることから、地域と情報共有を図りながら、効果的なシカ被害対策に取り組んでいます。

●取組の紹介

管内の各森林管理署等において、自動撮影カメラ及び目撃情報による生息状況調査や植生調査の実施、市町村や協議会等との協定に基づく罠の無償貸し出し、くくりわなや囲い罠による捕獲、捕獲したシカの残渣処理など、様々な取組を行っています。

なお、くくり罠については、林野庁職員の小林正典氏が考案した「小林式誘引捕獲法」を広く用いており、普及も行っています。小林式誘引捕獲法とは、シカが餌を食べる際に口元の近くへ前足を置く習性を利用して開発された技術で、初心者でも簡単かつ効率的にニホンジカを捕獲することが可能です。設置方法の詳細については、ホームページで資料や解説動画を掲載していますので、ぜひご覧ください。

小林式誘引捕獲法：林野庁 HP

ホーム > 「国民の森林」 国有林 > 森林の整備・保全 > 病虫害・鳥獣害対策 > 小林式誘引捕獲法
https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kobayashishiki/kobayashishiki.html

残渣処理：局 HP

ホーム > 森林管理局へようこそ > 森林管理署等の概要 > 三重森林管理署 > 情報コーナー > 実施済みイベント情報 > 現地検討会「大型排水管を活用した捕獲個体の残渣処理等」を開催しました。
<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/work/20251016.html>





ICT 囲い罠による捕獲状況

● ICT 技術の活用事例

滋賀県米原市の奥伊吹国有林並びにその周辺地域において、米原市と連携して、カウントゲートシステム付き囲い罠を用いることにより、効率的なニホンジカの誘引捕獲を実施しています。ゲートに設置したセンサーでシカの出入りを把握し、設定した頭数以上が侵入すると自動でゲートが落ちるシステムで、同時に多頭数を捕獲することができます。

○クマ被害対策

昨年度以降、各地でクマの目撃情報が多発し、一部の地域では人身被害も発生しているところです。そのような中で、昨年 11 月に「クマ被害対策パッケージ」が閣議決定され、関係省庁連携による総合的な施策パッケージの実施により、国民の命と暮らしを守ることとされました。

このパッケージに含まれる施策を体系的に実施するため、今年 3 月には「クマ被害対策ロードマップ」が策定されました。

- ・クマ被害対策パッケージ（概要）

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kumahigai_taisaku/pdf/countermeasure_summary.pdf

- ・クマ被害対策ロードマップ

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kumahigai_taisaku/pdf/kuma_roadmap.pdf

近畿中国森林管理局においても、管内 3 つのブロック（中部、近畿、中国四国）で環境省、国土交通省等の出先機関と連携し、関係省庁連絡会議を通じた情報共有を進めるとともに、パッケージやロードマップに基づいた取組を行っています。ここでは、その取組の一部を紹介します。

●堅果類の豊凶の把握、情報発信（ロードマップ②の 5）

国有林内でのブナの結実状況（豊凶）調査を行い、その結果をクマ出没傾向の参考情報として森林総合研究所関西支所や各府県に共有し、注意喚起や被害対策に活用します。

- ・国立研究開発法人 森林研究・整備機構／ブナ等結実状況データベース

<https://www.ffpri.go.jp/labs/tanedas/>

●森林の巡視によるクマ目撃情報の提供（ロードマップ⑥の 2）

職員が地域住民の生活圏と近接する国有林等を巡視し、クマを目撃した場合は、地元市町村等に情報提供しています。

●そのほか、林業現場でのクマとの遭遇を防ぐための注意事項や、万が一遭遇した場合の対応についてリーフレットを作成していますので、ぜひ参考にしてください。

クマに遭遇しないために：近畿中国森林管理局 HP

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/apply/license/attach/pdf/bear_flyer.pdf



津山市立中学校職場体験学習「わくわくワーク」を受け入れました。

【岡山森林管理署】

令和8年6月2日（火）から6月4日（木）までの3日間、津山市立加茂中学校の2年生1名の職場体験学習を受け入れました。

この職場体験学習は、実際に働いている人と接し、自分自身も体験することで、働くことや学ぶことの意義や目的を理解し、進路意識の熟成などを図る目的で実施されているものであり、当署では平成25年度から毎年受け入れています。

今年度は、岡山県内の国有林及び岡山森林管理署において、高機能GPSおよびQGIS^{*}による図面の作成、木材生産事業実施箇所の見学、イベント用の木工クラフト見本の作成、治山事業箇所での緑化基材の散布、ドローンによる鹿防護柵の状態確認などを体験しました。台風の影響で悪天候

の中での現場作業もありましたが、職員の説明や指導をよく聞いて慎重に取り組み、怪我もなく3日間の職場体験を無事に終えることができました。

今回の職場体験を通じて、森林を管理することの意義や大変さを学び、自分たちの生活との関わりを感じ、将来の進路を考える際の手助けになればと思います。岡山森林管理署では引き続き職場学習等の学生の受け入れを行っていく予定です。

※ QGIS は、世界中で利用されている地理情報システム（GIS）ソフトです。GIS とは、地図（位置情報）と各種データを重ね合わせて管理・分析するための仕組みの総称であり、QGIS はその代表的なフリーソフトの一つです。日本国内においても、広く利用されています。



QGIS による図面の作成



生産事業実施箇所の見学

令和8年度 民国連携研修会を実施しました。

【福井森林管理署】

令和8年6月16日（火）に、福井県あわら市において「苗木のドローン運搬に関する研修会」と題し、福井県との共催による令和8年度民国連携研修会を開催しました。

植栽における苗木運搬、特にコンテナ苗の運搬は林業従事者の負担となっています。この重労働の緩和が期待されるドローンを使った苗木運搬を主題とした研修会を実施し、県出先事務所及び市町の担当者、森林組合等を中心に55名が参加しました。

初めに、福井県総合グリーンセンターの担当者から、「コンテナ苗の管理等における注意点について」と題し、コンテナ苗の植栽方法、植栽時における留意事項についての説明がありました。



担当者からの説明

その後、福井県内において苗木のドローン運搬に先駆的に取り組んでいる坂井森林組合の事業箇所において組合職員より苗木運搬の説明と実演が行われました。また、大野市内に本社を置く、「石森電通システム株式会社」による大型ドローン（最大積載量80kg）による苗木運搬および薬剤散布の実演がありました。



ドローンの実演の様子

参加者からは、「新しい情報を得ることができ、有意義な研修だった」というコメントが聞かれました。

来年度に向けても、福井県と協力しながら有意義な民国連携の研修会を実施していきたいと考えています。

未来の森を支える担い手を育てる ー林業大学校等にフォーカスー ふくい林業カレッジ

【企画調整課】

近畿中国森林管理局と管内の林業大学校等 11 校で構成する林業大学校等協議会を設置し、森林・林業の次代を担う人材の育成・確保に取り組んでいます。

各校では森林・林業のプロの育成を目指し、学生達が知識・技術の習得に汗を流しています。各校をリレー形式で学生の日常や取り組みなどをご紹介します。

令和 8 年 7 月 31 日（金）、ふくい林業カレッジ短期コース修了式が行われ、2 名の研修生が旅立ちを迎えました！

当校には、長期コース（4 月～3 月）と短期コース（4 月～7 月）の 2 つのコースがあり、今年度も、早期の就業を希望していた



技術習得中の研修生

若い研修生が、熱心に技術の習得に励んでいました。

研修生にとって短期コースは、県内で活躍する技術者から指導を受け、8 つもの資格取得が可能となる有意義なカリキュラムです。

成長を遂げた 2 名は、8 月から県内の林業事業体に就業予定で、今後の活躍が期待されます！



修了式



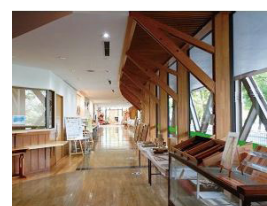
研修生の募集について



福井県産材活用課
公式 YouTube チャンネル

お知らせ

森林のギャラリー（局庁舎 1 階）



【技術普及課】

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【奈良森林管理事務所】

○第 15 回「春日奥山古事の森」普及啓発イベントを開催します

【開催日】令和 8 年 10 月 30 日（金）

【場 所】東大寺

詳しくは下記ホームページをご覧ください。

ホーム＞報道・広報＞報道発表資料＞第 15 回「春日奥山古事の森」普及啓発イベントの開催について

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/press/nara/260730.html>



【三重森林管理署】

○吉野熊野国立公園指定 90 周年記念「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」を開催します。

【開催日】令和 8 年 10 月 2 日（金）

【場 所】集合・受付：大台ヶ原ビジターセンター前

詳しくは下記ホームページをご覧ください。

ホーム＞報道・広報＞報道発表資料＞吉野熊野国立公園指定 90 周年記念「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」の開催について

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/press/mie/260731.html>



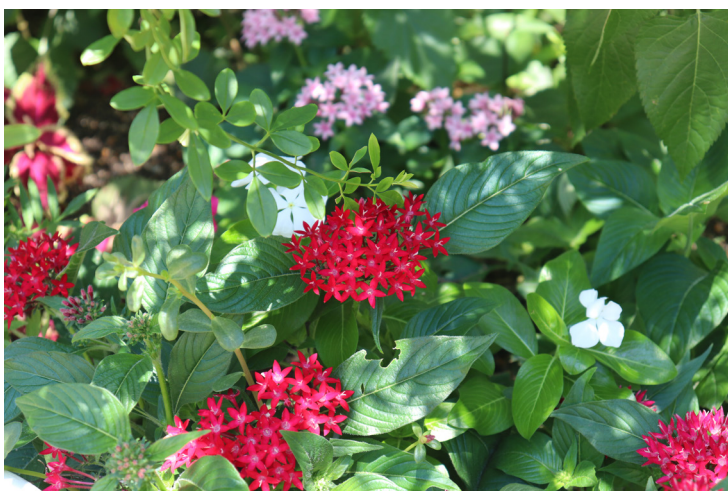
花草木

【ペンタス】

ペンタス（学名：Pentas lanceolata、和名：クササンタンカ（草山丹花））は、夏の暑さにとても強く、星形の小さな花が集まって咲く人気の花壇植物です。アカネ科の植物で、原産地はアフリカ東部からアラビア半島周辺です。

名前の由来は「ペンタス（Pentas）」がギリシャ語の「5（pente）」であることから、花が5枚の花弁を持つことによります。また、花の色はピンク、赤、白、紫など豊富であり開花期間が長く、真夏の強い日差しにも比較的強く5月頃から秋まで咲き続けます。

花言葉は、「希望がかなう」「願い事」「誠実」「博愛」等です。



大阪市内の公園で咲いているペンタスの花

我が署のスタッフ 岡山森林管理署

田中 敬大（たなか けいた）（令和8年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループの土木担当として林道の現地調査や測量・文書管理などの業務を行っています。採用1年目でわからないことも多くありますが、上司や周りの方々に助けていただきながら日々仕事に取り組んでおります。まだ設計や積算などの業務には取り組めていないですが、基礎をしっかりと身に付け、一歩ずつ着実に成長していきたいと考えています。

【職場の雰囲気は？】

分からないことを気軽に質問しやすい環境です。仕事に関することはもちろん、私生活に関する相談にも明るく親身に対応してくださり、大変恵まれた職場だと感じています。

【林野庁の魅力は？】

事務作業だけでなく、現場での業務にも携わることができるのが魅力です。実際に現場へ足を運ぶことで、デスクワークだけでは得られない達成感ややりがいを感じることができます。

また、森林の魅力や自然の大切さを身近に感じながら、他ではなかなか経験することのできない業務に取り組める点も大きな魅力です。



事務所で作業中

森林事務所等紹介

松阪森林事務所（三重森林管理署）

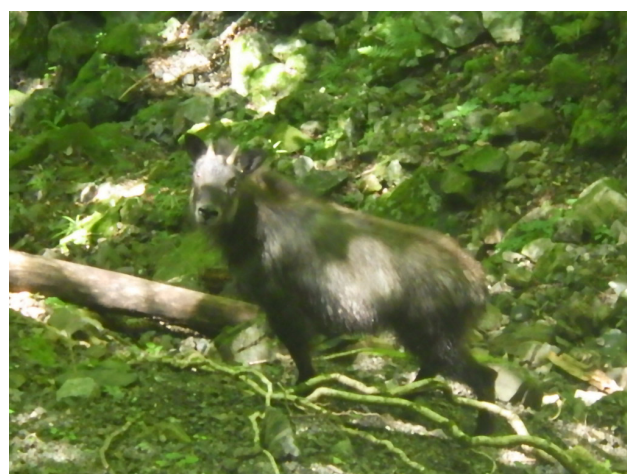
森林官 瀧岡 忠雄（たきおか ただお）

松阪森林事務所は三重県中部地域の5市・5町、標高1,400mを超える奈良県との県境からリアス式海岸と大小の島々が絶景として名高い英虞湾などの太平洋まで広大な範囲を管轄区域とし、松阪市と津市に所在する国有林（千石平・大名倉・深谷・深山）4団地約1,805haと、津市に所在する官行造林地（大廻り・松ノ尾）2団地約42haを管理しています。

国有林では大台ヶ原山系^{おおだいがはら}に位置し、厳しい山岳地帯で自然豊かな森林である「千石平国有林」「大名倉国有林」があります。ここでは昨今、世間を騒がせている「ツキノワグマ」や国の特別天然記念物である「カモシカ」などの多くの野生動物が生息しています。



大名倉国有林に咲くツツジ



千石平国有林に生息するカモシカ

また、赤目一志峡県立自然公園の中にあり、日本最古の若宮八幡宮とされる川上山若宮八幡宮の背景林となっている「深谷国有林」やその昔、木馬を使って木材を搬出していた「深山国有林」があります。



深谷国有林の麓に建立されている川上山若宮八幡宮

その他として、近年では「相続土地国庫帰属制度^{*}」により国が管理を引き継いだ森林（志摩市内）の管理も行っており、業務内容は多岐にわたっています。

これからも、松阪森林事務所では、地域の方々や関係市町との連携を深めながら、このような豊かな森林環境や歴史・文化を育んできた国有林野を適切に管理し、その価値を次世代に引き継いでいけるよう努めてまいります。

^{*}相続土地国庫帰属制度は、相続や遺贈で取得した不要な土地を手放し、一定の要件や費用の負担のもとで国に引き渡すことができる制度です。

シリーズ『国有林 最前線！』

大山における国有林治山事業について

鳥取森林管理署

中国地方の最高峰として知られる大山（標高 1,729 m）における国有林治山事業の歴史は古く、大正 6（1917）年、大阪大林区署（現在の近畿中国森林管理局）が直轄事業として、佐陀川に野面空積えん堤を施工したことに始まります。

開始から百年を超える大事業となっていますが、大山においては、荒廃地等から生産される大量の土砂により短期間に河床が高くなり、設置した治山施設が埋まってしまい、この土砂の発生源を治めることは容易なことではありません。

そこで、治山事業を計画するにあたっては、この土砂の発生源の脚部に谷止工^{※1}や土留工^{※2}を施工することで、崖錐（岩石などが堆積した半円錐状の地形）の形成を促し、土石流の発生を抑え、時間をかけて下流域に被害を起こさない程度の土砂を流下させることが必要となります。

このため、治山事業は次のような基本方針のもとに行っています。

- ・崩壊地の脚部に谷止工、土留工を計画的に配置し、崖錐の形成を図る
- ・床固工^{※3}の施工により現在の溪床勾配を維持する
- ・溪流の適所に高いダムを築き土砂などの貯留と流出する土砂の調節機能を持たせる
- ・道路、家屋などの保全対象の近い箇所には護岸工を築いて流路を固定する
- ・比較的新しい崩壊地で復旧可能な箇所は、山腹工を施工して安定した斜面に導き緑化を図る

大山における国有林治山事業は、山頂付近の大崩壊地などから、絶え間なく生産される土砂などを抑制し、溪流にある不安定土砂の移動を調整し、山に緑を取り戻すことを目的としています。

これによって、国土の保全、水資源の涵養、地球温暖化防止、生物多様性の保全など森林の公益的機能が発揮されることになります。

また、民有林治山事業や砂防事業などの治山治水事業の実施と相まって、流域に暮らす人々の生命や財産を守り、道路や学校などの公共施設の保全を図るなど、その効果は計り知れないものがあります。

鳥取森林管理署では、関係機関と連携しつつ、引き続き、国有林治山事業を実施することにより、地域の皆様の安全・安心な暮らしの実現に向けて努めてまいります。

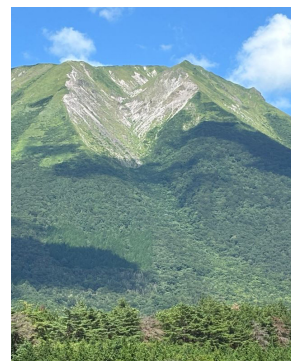
大の沢における治山事業の効果



昭和 47（1972）年
（事業着手前）



平成 12（2000）年
（事業完了）

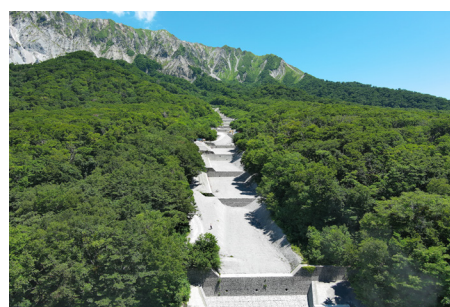


令和 7（2025）年
（現在の状況）

※ 1 谷止工：土砂の流出や侵食を防ぐ治山施設（治山ダム）を設置する工法で、小規模なダムの形状をしています。

※ 2 土留工：土砂の崩壊や流出を防ぎ、斜面を安定させるためにコンクリート壁などの構造物を設置する工法です。

※ 3 床固工：谷止工の下流側などで溪床の安定を図る補助的な構造物を設置する工法です。



溪床へ階段状に施工した床固工群（二の沢）



土砂の調節機能を持たせた治山ダム工（元谷）